

平成29年度厚生労働科学研究費補助金（統計情報総合 研究事業）
（分担）研究報告書

適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発

研究分担者 横井 英人 香川大学医学部附属病院 教授

研究要旨

本研究では、原死因を適切に記載するための教育コンテンツの開発により、死亡診断書・死体検案書の標準的な記載例集を作成し、適切な原死因の記載についての普及・啓発を目的とする。

本年度は、e-ラーニングによる教育コンテンツのうち、模範記載例（標準的記載例）の内容の充実を図った。前年度に作成したe-ラーニングシステムに改訂を行い、さらに構成を変更し、多数の事例ベースの具体的記載例を作成した。e-ラーニングシステムの活用により、死亡診断書・死体検案書の適切な記載が増えることが期待される。

A．研究目的

死亡診断書・死体検案書の記載に関して、適切な記載、標準的な記載例を作成し、死亡診断書・死体検案書の「原死因」の適切な選択が可能となるような、教育コンテンツを開発する。

B．研究方法

研究開発としては、前年度に作成したe-ラーニングシステムに加え、事例と模範記載例（標準的記載例）を中心とするコンテンツを作成し、追加する。特に、収載する事例については内因死事例から外因死まで、さらに複数の病態が関与する事例や経過が長い事例など、日常の診療や検案で遭遇する機会が多いもの等、幅広く対象とする。

様々な領域の専門家から構成される各分担研究者、研究協力者の協力の下、模擬事例の作成、原死因選択ルールに基づいた模範記載例（標準的記載例）および解説も加えて内容の充実を図った。作成した記載例については、研究班員全員でのブラッシュアップを行い、様式の統一を図った。

作成した事例については、前年度作成したe-ラーニングシステムに追加、改訂を行い、さらに構成を変更し、使いやすくした。

（倫理面への配慮）

例示の作成に際しては、個人情報や個人が特定できるような内容は含まないよう、十分配慮した。

C．研究結果

e-ラーニングシステムの構成を、大きく1.例示編、2.e-ラーニング編、3.確認問題として、学習者の利便性の向上を図った。また、より多数の事例を設定することにより、様々な事例の死亡診断書・死体検案書の作成にあたる、より多くの医師のニーズに対応できるように努めた。

D．考察

死亡診断書、死体検案書は医師自らが医学的診断に基づいて作成する。記載内容には性別など、選択肢を選ぶ項目もあるが、死因に関する事項は直接記述する項目が多い。そのため、e-ラーニングシステムの導入を行う場合も、それぞれの記載項目の自由度が大きくなるため、クイズ形式の設問を用いる場合には問題設定に大きな制約が生じる。そのため、本年度は、e-ラーニングシステムに模範記載例（標準的記載例）を大幅に追加し、さらに構成を変更することで、学習者の利便性の向上を図った。

死亡診断書、死体検案書の記載内容のうち、死因欄に記載された傷病から選択された原死因を基礎として、死因統計が作成される。死因統計は、わが国の保健衛生行政や社会的にも広く活用されており、保健衛生政策を実施していく上での基盤データのひとつである。一

人一人の死亡診断書、死体検案書のなかの死因に関する記載内容が死因統計の分類を行う上での基礎となっており、医師はどのような形で記載内容が統計作成に利用されているかを熟知しておく必要がある。今回作成した教育コンテンツを活用することで、死因統計の精度向上、ひいては国民の健康増進・福祉の向上に大きく寄与することが期待される。

E . 結論

今回作成した教育コンテンツでは、e-ラーニングシステムの構成を変えたことで、学習者の利便性の向上を図った。また、より多くの医師のニーズに対応できるように努めた。このシステムを活用することで、記載内容がどのように統計作成に利用されているかについての認識が増し、死因統計の精度向上につながることを望まれる。

F . 健康危険情報

該当なし。

G . 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし
3. 関連した実務活動
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

該当なし。

